



高島地域 住民自治協議会 だより【No.3】



4月19日(火)の夜、高島支所にて開催された高島地域区長・自治会長会議の後、「サポートリングたかしま」の活動方針などについて、加藤会長・山田副会長から説明をさせていただきました。

「サポートリングたかしま」は、現在事務所や業務の立ち上げ準備中で、具体的な活動が見えない状況ですが、区長さん・自治会長さんを始めとする集落の役員さんたちとお互いに知恵を出しあって、高島地域の住民活動活性化の成果を生み出したいと考えています。

6月の予定表

6月の予定表		相談員
1	水	井上 修三
2	木	竹中 寛
3	金	河毛 悦男
4	土	川島 清治
5	日	清水 良恵
6	月	お休み
7	火	お休み
8	水	加藤 幸江
9	木	水谷 裕之
10	金	藪内 キヨ子
11	土	林 勝
12	日	廣坂 吉憲
13	月	お休み
14	火	お休み
15	水	中村 真奈美
16	木	仁賀 定夫
17	金	山田 善嗣
18	土	横田 久夫
19	日	井上 修三
20	月	お休み
21	火	お休み
22	水	加藤 幸江
23	木	河毛 悦男
24	金	川島 清治
25	土	清水 良恵
26	日	竹中 寛
27	月	お休み
28	火	お休み
29	水	加藤 幸江
30	木	仁賀 定夫

何ができるの？ してくれるの？

高齢化や少子化で、集落の役員の手が足りないとか、空き家が増えてきたので将来が不安だという気持ちが高まっています。そんな将来を見据えて、高島市の6地域ごとに住民自治協議会が設立されました。

が、住民自治協議会の役員も職員も、具体的にどのような活動から取りかかれば良いのか明確な答えを持っていないわけではありません。とりあえず始めてみて、集落の役員さんたちとともに悩み・議論をして何らかの答えを見つけ出して、効果がありそうなことをやってみたいと考えています。

高島地域住民自治協議会では、高島地域に暮らす住民全員の叡智をつなげて、我々の困りごとを解決したいと言う思いで協議会に「サポートリングたかしま」の愛称をつけました。

区長さんや自治会長さんだけでなく、健康推進員・福祉推進委員・防災リーダー・人権教育推進員・交通安全協会地区役員・老人会や女性の会、子供会の役員の皆様も、自分たちの活動について困りごとがあればお気軽に相談にお越しください。

我々だけでは解決できなくても、行政や高島市の他地域の団体の叡智を集めて、皆様と一緒に答えを見つけたいと考えています。

サポートリングたかしま 高島地域住民自治協議会

事務所：高島市勝野670番地 高島公民館2F

開館日：日・月・火・水・木・金・土 (お休みは予定表をご覧ください)

開館時間：10時～13時 (相談員が待機しております)

※都合により、当面の間、上記の時間に開館します。

☎：090-2115-9055 (お越しの際は、まずはお電話下さい)

メール：takashima.juminzichikyuu@gmail.com

鵜川区紹介

棚田を舞台に 都市住民との交流で地域活性化！

鵜川地域の棚田は、比良山系と琵琶湖に挟まれ、棚田から見る雄大な琵琶湖のパノラマは、見る人の心を癒してくれます。

さらに、棚田の中ほどを電車が走る光景を写真に収めようと多くの鉄道ファンが訪れています。



現在、鵜川地域の世帯数は43戸で空き家と一人暮らし世帯が目立つようになってきましたが、将来を担ってくれる子どもの数は23名（中学生以下）で、近隣の自治会と比較して多い方だと思います。

今、区民が一番憂慮しているのは、古くから営々と耕作してきた棚田が荒廃していく姿を見ることです。しかし、棚田を守ろうにも地元住民だけでは限界があります。

そこで目を付けたのは、農業や棚田に関心がある都市住民の方々です。

平成28年に「鵜川棚田保存会」を立ち上げ、棚田オーナー制度に取り組みました。毎年、田植えと稲刈りには150人を超える方が訪れています。



また、平成30年からは風光明媚な景観と、棚田特有の日当たりと、水はけの良さが果樹を栽培する条件に適していることから、耕作放棄地で始めた果樹の栽培が、

現在、60アールに展開しています。



今後は、都市住民を対象にした観光農園や果樹オーナー制度の導入を目指しています。

さらに、令和2年から、(株)パソナ農援隊との協働による棚田の活性化にも取り組んでいます。

地域住民の頑張りだけでは新たな発想やアイデアは生まれにくく、企業や大学と連携することで地域の魅力を再発見したり、地域の資源を再認識できることが多くあります。

今後も「鵜川棚田保存会」が存続し、継続した取り組みを進めていくことが、地域活性化の原動力になると考えています。

(文章・山田 善嗣)

高島地域の

コンナ話

あんな話

半島との交流・湖西唯一の前方後円墳

鴨稻荷山古墳

安曇川駅から南へ約2キロの鴨川にかかる天皇橋の南にある鴨稻荷山古墳は、古墳時代後期のもので、湖西地方では平野部に立地する唯一の前方後円墳で、高島市内で最も有名な古墳です。

もともとは名の通り稻荷を祀っていた塚であつたと言われています。

今から1200年前の明治35年(1902)、この古墳の東側を通る上街道が県道に昇格し、改良工事が行われました。

その際に、古墳の盛土が土取りされ、8月9日に墳頂から石棺が発見されました。翌10日に村の役員が立ち会う中、石棺の蓋石がはずされ朱で真つ赤な棺内が見聞されました。

古墳の築造時期は6世紀前半と位置づけられています。安曇川町田中周辺で生まれたとされる継体天皇を支えた三尾氏首長の墓であると推定されるとともに、巨大な家形石棺や朝鮮半島の影響を受けた純金製の耳飾りなどの副葬品が出土したことから、朝鮮半島との強い交流が盛んだったことを裏付けています。

古墳域は昭和39年(1964)に滋賀県指定史跡に指定されており、副葬品の多くは東京の国立博物館に収蔵されています。

注:「鴨稻荷山古墳」の詳細については、高島歴史民俗資料館で確認することができます。



家形石棺